

A 病院における専門看護師，認定看護師の活動周知や役割認知と活用の関連

三宅 知里

森ノ宮医療大学助産学専攻科

(2020年6月15日受付)

要旨：「目的」A 病院における CNS-CN の活動報告書閲覧の有無と CNS-CN の活用の有無との関連，および CNS-CN の役割認知の有無と CNS-CN の活用の有無との関連について明らかにする。

「対象」研究対象者は，A 病院に在籍し研究参加に同意の得られた看護師 588 名である。

「方法」調査内容は看護師に CNS-CN が発行する活動報告書閲覧の有無，CNS-CN の役割認知の有無，CNS-CN の活用の有無について調査した。

データ収集は，看護師には各部門の看護師長から所属部署看護師に調査用紙を配布し，記入を依頼した。アンケートは無記名し，調査用紙記入を持って，同意が得られたものとした。分析は，活動報告書の閲覧の有無と CNS-CN の活用の有無との関連および CNS-CN の役割認知の有無と CNS-CN の活用の有無との関連については，カイ二乗検定により分析した。有意水準は 0.05 とした。

「結果」A 病院に在籍する全看護師 588 名にアンケートを配布し，看護師 491 名(回収率 83.0%)から回答を得た。活動報告書の閲覧の有無と CNS-CN の活用の有無についてカイ二乗検定で分析した結果，活動報告書を「閲覧した」と回答した看護師の方が CNS-CN の活用「あり」の割合が多く有意差がみられた ($p < 0.01$)。

CNS-CN の役割認知の有無と CNS-CN の活用の有無についてカイ二乗検定で分析した結果，CNS-CN の役割について「知っている」と回答した看護師の方が CNS-CN の活用「あり」の割合が多く有意差がみられた ($p < 0.01$)。

「結論」CNS-CN の活動報告書を閲覧している看護師の方が CNS-CN を活用しており，CNS-CN の役割を認知している看護師の方が CNS-CN を活用していることが明らかとなった。今後も活動や役割を可視化し活用促進につなげることが重要である。

(日職災医誌, 69 : 156—159, 2021)

—キーワード—

専門看護師，認定看護師，活用

1. はじめに

医療の変化に伴い，保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的として 1994 年に専門看護師制度が，1995 年には認定看護師制度が発足した。2014 年 4 月に専門看護師数は 1,480 人，認定看護師数は 14,282 人であり，全就業看護師数 (1,086,779 人) の 1.45% になった。本研究に着手した 2014 年 4 月に A 病院では専門看護師 1 分野 1 人・認定看護師は 12 分野 18 人になり，全国の労災病院の中で最多である。

そこで，A 病院の専門看護師，認定看護師 (Certified Nurse Specialist, Certified Nurse 以下，CNS-CN とする) が活用の実態を示すことは全国の労災病院にとってロー

ルモデルとなることが予想される。CNS-CN の活用について，日本看護協会が平成 12 年度に行った認定看護師の活用に関する意識についての調査では，看護管理者の 59.1% が「活用できている」と答えており，活用の具体例として，「スタッフの指導者としての活用(看護ケア能力を高める)」「最新の知識・技術に基づいた実践を通して看護ケアの質を上げる」¹⁾等をあげていた。また，福田²⁾は CNS-CN として専門的能力を発揮しやすいように組織を整えることが活用する上で重要であると述べている。看護管理者が活用や活用支援について述べている研究は多いが看護師が CNS-CN を活用について調査している文献は見受けられない。CNS-CN の活動の 1 つとしてニュースレターを発行している施設では，ニュースレ

表 1 CNS-CN 活用の有無との関連

項目	全体	CNS-CN の活用		p 値	
		あり	なし		
	n (%)	n (%)	n (%)		
活動報告書の閲覧	閲覧した	354 (72.1)	324 (78.0)	30 (39.5)	<0.01
	閲覧していない	137 (27.9)	91 (22.0)	46 (60.5)	
CNS-CN の役割	知っている	322 (66.5)	284 (69.0)	38 (51.3)	<0.01
	知らない	162 (33.5)	126 (31.0)	36 (48.7)	

カイ二乗検定

ターは活用され、発行希望者が過半数を超えると報告されている³⁾。A 病院でも活用しやすい専門・認定看護師を目指し活動報告書を作成することで活動をアピールし、活用を促進している。

CNS-CN が能力を発揮し活動するためには個人の能力だけでなく、役割認知や活動を可視化することが重要である。しかし、A 病院において、CNS-CN の役割認知や活動が周知され十分に活用されているかが把握できていない現状である。

そこで、A 病院における CNS-CN の役割認知や活用状況を調査し、今後の効果的な活用を検討したので報告する。

II. 研究目的

A 病院における CNS-CN の活動報告書閲覧の有無と CNS-CN の活用の有無との関連、および CNS-CN の役割認知の有無と CNS-CN の活用の有無との関連について明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究対象者

A 病院に在籍し研究参加に同意の得られた看護師 588 名である。

2. 調査内容

看護師に CNS-CN が発行する活動報告書閲覧の有無、CNS-CN の役割認知の有無、CNS-CN の活用の有無について調査した。

3. データ収集方法

研究者が各病棟の看護師長に依頼文と調査用紙を配布し、看護師へ配布してもらった。依頼文には、研究の目的、方法、倫理的配慮について明記した。対象者へは文書にて説明し、研究協力を依頼した。アンケートは無記名での回答とし、調査用紙の記入と院内の回収ボックスへの投函により同意が得られたとした。アンケートの記入時間は 15 分程度であることを明記した。データ収集期間は、2014 年 1~2 月とした。

4. データ分析方法

分析は、記述統計量の算出を行った。活動報告書の閲覧の有無と CNS-CN の活用の有無との関連および、CNS-

CN の役割認知の有無と CNS-CN の活用の有無との関連については、カイ二乗検定により分析した。有意水準は 0.05 とした。

5. 倫理的配慮

調査依頼書には本研究の目的、方法、研究協力の可否に関わらず業務上の不利益は被らないこと、プライバシーの保護、データは鍵のかかる場所で 5 年間保存した後に破棄すること、研究結果の公表について依頼文書に明記した。本研究は A 病院の看護研究倫理審査委員会の承認を得て開始した。なお、本調査における利益相反はない。

IV. 結 果

A 病院に在籍する全看護師 588 名にアンケートを配布し、看護師 491 名(回収率 83.0%)から回答を得た。全てを有効回答とした。アンケートに回答した看護師の経験年数は、1~5 年目が 145 名 (29.5%)、6~10 年目が 88 名 (18.0%)、11 年目~20 年目が 176 名 (35.8%)、21 年目以上が 82 名 (16.7%) であった。勤務場所は病棟が 399 人 (81.3%)、外来が 92 人 (18.7%) であった。

「活動報告書を閲覧しましたか」の質問に回答した看護師は 491 人で、「閲覧した」が 354 人 (72.1%)、「閲覧していない」が 137 人 (27.9%) であった。活動報告書の閲覧の有無と CNS-CN の活用の有無についてカイ二乗検定で分析した結果、活動報告書を「閲覧した」と回答した看護師の方が CNS-CN の活用「あり」の割合が多く有意差がみられた ($p < 0.01$)。

「CNS-CN の役割を知っていますか?」の質問に回答したものは 484 人で、「知っている」が 322 人 (66.5%)、「知らない」が 162 人 (33.5%) であった。CNS-CN の役割認知の有無と CNS-CN の活用の有無についてカイ二乗検定で分析した結果、CNS-CN の役割について「知っている」と回答した看護師の方が CNS-CN の活用「あり」の割合が多く有意差がみられた ($p < 0.01$) (表 1)。

V. 考 察

1. CNS-CN の活動報告書の閲覧と CNS-CN の活用の関連

本研究の結果では、活動報告書を閲覧している看護師

の方が CNS-CN の活用をしていることが示された。金澤らは、認定看護師が活発に利用されるためには、認定看護師が一方的に活動するのではなく、利用する側が近寄ることができる姿勢や認定看護師の有する可視化が必要である⁴⁾と述べている。認定看護師の活動評価の視点を鈴木らは、「自己の技術をどのくらい現場に広めていくことができているのか、最新の知識をどのように現場に還元できているのか、活動内容をいかに可視化し組織に還元できているのかが重要⁵⁾と述べている。

今後も CNS-CN の活動を可視化することは重要であり、全職員に対して可視化をしていく必要がある。活動の可視化の中では、各分野の活動内容や評価だけでなくそれぞれの分野の魅力をアピールし活用につなげる戦略が重要である。

2. CNS-CN の役割認知と CNS-CN の活用との関連

CNS-CN の役割を認知している看護師の方が、CNS-CN を活用していた。有用な活用のために看護師が CNS-CN の役割を認知することが重要である。福地本らは CNS-CN の活用システムにおいて CNS-CN の役割や能力に応じて活動できるようにすることが必要である⁶⁾と述べている。また、三輪らの CNS-CN を対象とした調査では、「役割が期待されていない」と回答した専門看護師は、管理者が専門看護師と認定看護師の違いや活用方法を理解していないと感じていた⁷⁾という報告もある。

CNS-CN の活用を促進するためには看護師の役割認知も重要であるが、今後は看護管理者が役割を認知することでより有用な活用につながると考える。

3. 研究の限界と今後の課題

研究の限界として対象が一施設のみと限られた調査であることから他病院での CNS-CN の活用とは異なる可能性がある。また、分野特性や CNS-CN の所属特性（専従勤務者や部署所属の兼任者など）を考慮していないため分野や所属特性の実態は明らかになっていない。

今後の課題として、CNS-CN 各分野の課題を明確にし、魅力ある専門・認定看護師となれるように研鑽していく

必要がある。

VI. 結 論

CNS-CN の活動報告書を閲覧している看護師の方が CNS-CN を活用しており、CNS-CN の役割を認知している看護師の方が CNS-CN を活用していることが明らかとなった。今後も活動や役割を可視化し活用促進につなげることが重要である。

[COI 開示] 本論文に関して開示すべき COI 状態はない

文 献

- 1) 日本看護協会 専門看護師・認定看護師認定部：2000 年認定看護師に関する実態調査。4—15, 2003.
- 2) 福田峰子：専門看護師・認定看護師を支援する施設の取り組み ii 淀川キリスト教病院, 看護白書。東京, 日本看護協会出版会, 2009, pp 205—215.
- 3) 大津佐知江, 池邊佳美, 佐藤寛子：CNS-CN の発行するニュースレターの評価。大分県立病院医学雑誌 45：11—16, 2018.
- 4) 金澤美弥子, 沖田登美子, 高崎多恵子, 他：全職員による認定看護師の活動評価—300 床規模の急性型病院での 3 年間の取組み—第 43 回日本看護学会論文集看護管理。339—342, 2013.
- 5) 鈴木愛美, 青木節子：スペシャリストの育成と組織的支援。看護 62 (20)：51—54, 2012.
- 6) 福地本晴美, 篠木絵理：特定機能病院の看護部門における専門看護師・認定看護師の活用システム。東京医療保健大学紀要 1：15—24, 2016.
- 7) 三輪恭子, 小迫富美恵, 林あり子, 他：専門看護師の活用促進に関する実態調査。日本 CNS 看護学会誌 4：105—112, 2018.

別刷請求先 〒546-0043 大阪市住之江区南港北 1-26-16
森ノ宮医療大学助産学専攻科
三宅 知里

Reprint request:

Chisato Miyake
Diploma Course of Midwifery, Morinomiya University of
Medical Sciences, 1-26-16, Nankokita, Suminoe-ku, Osaka-shi,
Osaka, 559-8611, Japan

Relationship Between Awareness of Activities, Role Recognition and Utilization of Certified Nurse Specialist and Certified Nurse in Hospital A

Chisato Miyake
Morinomiya University of Medical Sciences

Aims: This study aimed to investigate the relationship between viewing the CNS-CN activity report and CNS-CN use and that between awareness of the role of CNS-CN and CNS-CN use in Hospital A.

Subjects: Subjects were 588 nurses working in Hospital A who consented to participation in this study.

Methods: Nurses were surveyed on whether they had viewed the activity report issued by the CNS-CN, whether they were aware of the role of CNS-CN, and whether they had used the CNS-CN.

Data were collected via questionnaire forms, distributed by chief nurses of respective clinical divisions, which the nurses were requested to complete. The completed questionnaire forms were collected anonymously and were interpreted to indicate the respondents' consent to participation. The chi-squared test was used to analyze the relationship between viewing the activity report and CNS-CN use and the relationship between awareness of the role of CNS-CN and CNS-CN use. Statistical significance was considered as p value < 0.05 .

Results: Questionnaire forms were distributed to all 588 nurses working at Hospital A, and completed forms were received from 491 nurses (83.0% recovery rate). The chi-squared test of the relationship between viewing the activity report and the use of CNS-CN revealed that a significantly greater proportion of the nurses answering that they "viewed the activity report" used the CNS-CN ($p < 0.01$).

The chi-squared test of the relationship between awareness of the role of CNS-CN and the use of CNS-CN revealed that a significantly greater proportion of the nurses who answered that they "knew" the role of CNS-CN used the CNS-CN ($p < 0.01$).

Conclusions: Our study revealed that more nurses who viewed the CNS-CN activity report and were aware of the role of CNS-CN used the CNS-CN. These findings indicate the importance of making the activities and roles visible to promote their use.

(JJOMT, 69: 156—159, 2021)

—Key words—

certified nurse specialist, certified nurse, utilization